

第6回原野谷学園新たな学園づくり地域検討委員会 概要

日 時	平成30年 9月20日 (木) 19:00 ~ 20:40
場 所	原野谷中学校図書室
出 席	委 員 16人 事務局 教育長、教育部長、学務課長、学校教育課長 学校教育課指導主事、教育政策室長、教育政策室係長 教育政策室指導主事、教育政策室主任、教育政策室主事
内 容	
<p>1 開 会 2 教育長あいさつ 3 委員長あいさつ 4 報告事項  (1) 第5回地域検討委員会について  (2) 浜松中部学園視察  (3) 第2回地域意見交換会について  ※事務局より説明  「(3)第2回地域意見交換会」において、地域から「アンケート」についての意見が出された。この件について協議を行った。</p> <p><b>【事務局】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートについては、案として地区の役員の皆様に地域の意見を吸い上げていただき、意見を伺うという方法で行いたいと現在考えている。その理由として、これまで地域意見交換会や保護者説明会、教育委員会から配布する学園だよりを全保護者と地域回覧という形で周知を図ってきたことや、地域コーディネーターが配布する学園だよりと併せて、周知を推し進めてきたこと、さらに原野谷学園においては、地域未来検討会を立ち上げ、原田地区と原谷地区が一体となって取り組む仕組みを独自に作り上げ、地域への啓発活動も積極的に行ってきたためである。同じように研究を進めている城東学園の地域意見交換会において、「地域の皆さんが意識を持つような形に地域でしていかななくてはいけないのではないかな。行政は行政でやるべきことがあり、地域は地域でやるべきことがある。そこがうまくまとまって素晴らしい成果が出て、誰もが安心して暮らせる方向性が見えてくるのではないかな」という御意見があった。今回、これまでの検討委員会の検討状況をA3版裏表にまとめた学園だよりを各戸に配布する。それと併せて、地域の役員の力を借りて、「検討委員会では施設一体型の方角性で固まったが、どう思うか」という形でのアンケートを、できる範囲で聞いてきていただきたい。地区内のとりまとめも含めてお願いしたい。</li> </ul> <p><b>【委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域意見交換会や保護者説明会において、出席者が少ないので、他の人たちの意見を聞きたいとき、アンケートをしたらいいと簡単に言われるが、アンケートの内容は、非常に難しい。これまでの検討結果を御理解いただいた上でのアンケートにしないといけないと思っている。安易に「一体型に賛成しますか、それとも反対しますか」というレベルではない。</li> </ul> <p><b>【事務局】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「検討委員会としては、一体型の方角性で進めているがどう思いますか。」ということで、紙に書くのではなく、身近な人、地区の方に説明していただきながら、どう考えているのかということをお願いいただき、それを検討委員会の時に出していただく方法を</li> </ul>	

考えている。

#### 【副委員長】

- ・意見で「平日の夜に母親の意見を聞きたいというのは難しい。」とあったが、実際には幼稚園で昼と夜の2回説明会を行い、さらに小学校でも説明会を昼間に行っている。そのとき都合がつかなかったということもあるかもしれないが、実際に小学校の説明会に行き、意見交換会に参加したが、10人ぐらいしかいなかった。意見交換会で自分の都合だけを言うのはどうか。極端なことではあるが。内容が分からない中、反対や賛成の意見を出すのはどうか。アンケートを出すにしてもその内容を検討しなければいけない。「どうですか」ではなく、内容を理解してもらった上で、施設一体型にするのだけれどどうですかという形が必要と考える。ただ施設一体型に賛成、反対ということだけでは良くないと思う。

#### 【委員】

- ・浜松へ行っている娘が、赤ちゃんのいる母親同士でSNSでのやり取りをしている。あまり小中一貫教育について理解できていない中で、お互いに話しているような雰囲気である。良いことは知っているのかと聞いたがあまり知らない。小中一貫教育のことが伝わっていないと感じる。一体校の方向性を出すにしても、良いところはこんなところだと、話をしながらになるのかと思う。今の段階で、皆さんに一体校の方向でどうですかと言ったときに、まず出てくるのは、一体校はどうしてやるのかというレベルからまた始まることになる。また、良さを全く理解していない人もいる。良さを伝えた上で「どうでしょうか」という段取りがないと、今の段階では、アンケートに振り回されると思う。そこに時間をかけるのであればまだまだ時間はかかると思われる。もしこのまま進めるのであれば、その良さを伝えるような集会が必要。その後でアンケートを取ることになる。今、そういう場面にあると実感している。

#### 【委員】

- ・まちづくり協議会が立ち上げる前、準備委員会の時に住民へアンケートを取り、内容を分析しながらまちづくり協議会を設立していった。原野谷地区の世帯全部のアンケートを集約し、分析していくとかなりの日数がかかる。今回も小中一貫校についてのアンケートという問題が出た。アンケートの内容は小中一貫校をどうするか、原野谷学園をどうするかといったものになるのだろうか。全部分析したら、原野谷学園や小中一貫教育をしていきたいと出てくるかもしれない。
- ・一貫校及びまちづくりの合併には時期尚早だと言われることがある。「今やったって、子どもが増えるわけではない。会長どう思っているのだ。」と言う人もいる。それを聞いていくと、また一番初めに戻ってしまう。これまでの結論に至るまで、検討委員の皆さんがかなりの回数集まり、検討を重ねてきている。これを初めに戻してしまうと、問題が大きくなってくると思う。これらのことを踏まえながら、アンケートをやるのがどうなのかということの本日集まっている方の意見を聞いてみたい。
- ・原野谷地区の原谷、原田のまち協が合併して、まちづくりが一本化し、掛川の北部にある地域を活性化しながら良いまちづくりをしていきたい。これは子どもたちのためにもなる。子どもたちが今、小中一貫になっていければ、少し大人になっていったときに、原野谷のまちづくり協議会として立ち上がっていく。そのような夢を見ながら検討を進めている。

#### 【委員】

- ・今までの経過をたどると、保護者や地域への説明会等行っている。出られなかった方がいて、昼間やれば良いという意見もあったが、昼間やれば出てくるかと言えば、これは分からない。これまでの経過や検討委員会での検討、地域意見交換会等で意見を聞いている。その中で、大方小中一貫校でいこうと受け取っている。さらに、これまでの検討委員会の流れを検討委員会だよりとして出してくれている。最後に、「御意見や御質問等ございましたら、お寄せください」とも書いている。これを大きく書い

てほしい。また、電話でもFAXでもメールでも良いと書かれている。この形で意見を伺えば良いと思う。そして、この検討委員会でも、地域からの御意見を検討していくということで良いと思う。これまでいっぱいやってきているものだから、これまでの形で良いと思う。

**【事務局】**

- ・検討委員会だよりを配布し、その中で御意見をいただくという形でアンケートを進めていくことでよいか。

**【委員】**

- ・一番初めのタイトルの部分に「御意見・御質問をお寄せください」として良いのではいか。1つの方法である。

**【事務局】**

- ・今の意見を伺い、事務局で検討していく。

**【委員長】**

- ・アンケートの件については、市の方で今検討された方向で、全員の意見が反映されると思う。よろしく願いたい。

## 5 協議事項

### (1) 原野谷学園における学校施設の方向性についての確認

**【委員長】**

- ・原野谷学園における学校施設の方向性についての確認である。これまで5回にわたる検討委員会を開いてきた。また、地域意見交換会でも住民から様々な意見をいただいた。それらを踏まえ、原野谷学園における新たな学校施設の在り方についての方向性を確認したい。
- ・これまで様々な意見があった。また、議事録にもあるが隣接の学区をどうするかということもあったが、検討委員会では、原野谷地区の方向性を決めた後の議題になるので、まず検討委員会の中での意見を固めようではないかという方向で協議を行ってきた。そして施設一体型の学校を要望するという方向で合意している。その経緯をおさらいすることは避けるが、方向性としてはよろしいか。改めて御意見があれば、この場を出していただきたい。

**【委員】**

- ・良い。

**【委員長】**

- ・賛同いただければ拍手で確認したい。

**【委員】**

- ・全員拍手。

**【委員長】**

- ・確認をした。

### (2) 検討委員会報告書（案）

**【委員長】**

- ・検討委員会の報告書案について、まだ付け加えなければならないところもある。事務局から詳細な説明をお願いし、改善等御意見、御質問等あればいただきたい。

<事務局から報告書案について説明>

**【委員長】**

- ・御意見を報告書に反映させるため、みなさんの御意見をいただきたい。
- ・この新たな学園づくり地域検討委員会は平成29年12月から行われているが、その前の段階があったということを確認してほしい。小中一貫教育の始まりは平成23年度から

である。それぞれの地域では小中の連携をもっと前から行っていた。もっとより良くしていこうとはじめてのが平成23年度である。平成25年度からは掛川市の特徴で中学校区の中にある小学校と中学校が連携して学園化構想が始まった。実際に、子ども育成支援協議会や保幼小中一貫連携教育が進められてきた。これは全国的に特徴のあるやり方である。ただこれまで具体的な一体型の校舎はなかった。連携するという先生方の努力で行っていた。しかし、子どもの減少や、校舎の耐久年数等を考えると、新しい学校を作らないといけないという時期が迫ってきている。そこで、第2ステージ検討委員会が立ち上げられ、平成28年度にその報告書が出された。その中では学校施設について、一体型や分離型等の様々なパターンが検討され、その上でこの検討委員会が立ち上がっている。そういった経緯を踏まえた上で、この検討委員会ではさらにどんな提言が可能だろうか、特に原野谷地区としてどういったものが望ましいのか、ということを是非御意見いただきたい。

#### 【委員】

- ・掛川の一番奥に原野谷地区があるわけだが、今度新しく施設を作るとなると、学校施設は地域とのコミュニケーションを取る施設として大いに開放してほしい。図書館も、掛川市の中心部まで行かないと図書館がないことに対して、施設一体型の学校の図書館を充実させて、その施設を地域の皆さんに開放していただきたい。
- ・色々な意味で学校施設を地域に開放するということを述べたが、セキュリティ面等の管理が課題となるのではないか。施設を作っていく段階になれば、話し合いをしておかなければいけないと思う。

#### 【委員】

- ・沼津の静浦小中一貫校と浜松の中部学園の2つを視察し、大きな違いがあった。沼津の場合は、地域に密着して連携した学校であった。浜松中部学園は、地域と今まで以上に離れている感じを受けた。勉学を中心に、競争力や勉強ということを校長は話していた。街中の学校ということもあるかと思うが、同じ一体校であるけれども、2つの学校の方針がかなり違うと感じた。
- ・原野谷学園の場合、どのように方針をもっていくのか。これまで地域との連携を盛んに謳っているけれども、そのあたりがどうやって生かされていくのか。

#### 【事務局】

- ・これまで深めてきた地域との連携をより深めるため、地域の方々の意見を学校運営に反映する、いわゆる学校運営協議会制度を取り入れていきたいと市では考えている。今でも各学校に学校評議員制度がある。評議員になられた方は、学校に集まり、校長から学校の運営等の説明を受け意見を伝えてもらっている。それを法律に則った形で深めていきたい。そこで学校運営協議会制度を取り入れていくことによって、地域の声が学校運営に反映される形を整えていきたい。

#### 【委員長】

- ・地域連携を保障するために、学校運営協議会制度というものがある。学校運営協議会は、掛川市は市内の全ての学校に設置することを目指している。一体校という議論とは別な話である。これは静岡県全体が、強くそういった方向を目指している。地域と学校の先生方との合議体を作るというものである。

#### 【事務局】

- ・新しい原野谷をどういう形にしていくかということであるが、経営方針や理念、目標などについて、このまま進めていけるようであれば、来年度に基本構想を作成する予定である。その中で市民の皆さんに参加していただき市民ワークショップみたいなものを行い、地域の皆様からの御意見を伺いながら、新しい学校の態様であったり、経営理念に望むことであったり、様々なアイデアをいただきたい。1年かけて新しい学校の形、皆さんの思いを作っていくと考えている。それが進んだら、基本設計を作成する予定。計画だけで、3～4年かかるが、来年は、地域や掛川市みんなで、ど

ういう学校にしたいのかということをもとめたいと考えている。

**【委員長】**

- ・市全体での構想、基本構想を来年度掲げ、その翌年には、具体化する基本計画を作っていく。全学校で動かしていくということか。

**【事務局】**

- ・原野谷学園における学校の基本構想と基本設計である。そしてその後、実施設計を立てていく。その次から工事を着手することになる。

**【委員長】**

- ・検討委員会で一体型ということになったので、来年度の基本構想を作成する中に、住民の皆さんの色々な意見が反映され、その後基本設計が作られていくという流れか。

**【事務局】**

- ・その流れで来年みなさんの意見をたくさん伺うことができると考えている。

**【委員】**

- ・研修視察の中で、一番印象に残ったことは、浜松中部学園の校長の強いリーダーシップである。新しい施設一体型の学校ができた場合、市や市教委のサポートや支援、保護者や地域の理解及び協力は当然の基盤であり、学園の建物ができた後は何といても教職員などの学校力だと感じた。成功するしないは学校の先生方、最終的には校長の大きな力にかかってくる。
- ・ランドデザインもこれまでに検討委員会の中で見てきた。学校の先生が小中一貫教育について研修しており、原野谷学園は、子どもの姿を地域全体で目標にしていくような形で取り上げている。今度の研究会でも山崎委員長にお越しいただき、全体にお話しされるということ伺っている。報告書の中に、学校の先生方の意見も上手く入れ込んだらどうか。

**【委員】**

- ・教員の研修や意見については、代表である校長の意見でも可能かと思うが。反映できるのか。色々なやり方はあるかと思う。

**【事務局】**

- ・報告書は、検討委員会で話し合われたことを中心にと考えて作成した。経緯の中で、第2回の時に、原野谷学園の校長から、今進めている小中一貫教育についての説明があった。その部分を厚くしていくことでどうか。また、地域検討委員会とは別に小中一貫教育の研究を進めているところであるので、途中経過になるかもしれないが、別の項を立て、資料として挿入していくことも考えられるがいかがか。

**【委員長】**

- ・検討経過のところに載せることはどうか。

**【事務局】**

- ・検討経過では、第2回のところにランドデザインの図を入れたり、説明内容を詳しく記載することが考えられる。また、小中一貫教育の研究について、今年度中間発表を行うため、その内容を資料として付けさせていただく、ということでしょうか。

**【委員長】**

- ・中間発表を行うので記載する方向でどうか。中間発表の日にはいつか。お知らせしておいた方が良いでしょう。

**【委員】**

- ・11月28日に行う。

**【委員長】**

- ・11月28日に小中一貫教育の原野谷学園として取り組んできたことの中間発表を行うということ。場所は原谷小となる。
- ・中間発表の内容であると若干検討しないといけないかと思うが、この検討委員会で出たランドデザイン的なものは、報告書に入れても良いかと思う。スペース的に入らなければ、別資料としてやることもあるかと思う。そのあたりは事務局判断でお願い

する。

- ・17ページに老朽化度とあり、原野谷中学校は80%を超えている。その%の基準はあるのか。何%を超えたら危ないとかというもの。

**【事務局】**

- ・基準自体は特にない。非木造なら60年を超えているかどうかの判断だけで行っているものである。現実には60年を超えても健全な建物というのはある。木造でも30年を超えているものでも健全である建物はいくらでもある。これは単純な年数による老朽度ということに置き換えている。見える化しているだけというものである。

**【委員長】**

これは全国で使われているか。掛川市だけの指標なのか。

**【事務局】**

- ・一般的という考え方で良い。

**【委員】**

- ・浜松中部学園を見学した時、私立の中学校に行くとか、子どもの流れがあって、他に流れてしまう部分がある。その減った分を、学区外からも人を集めるようにしている。この地域だと、学園化構想で地域の方という話だが、仮に人の数についてだと、学区外からも考えられるのかなと思う。

**【委員長】**

- ・幼稚園などは学区というものが明確にあるかどうかは分からないが、希望があれば受け入れていると思うが。

**【委員】**

- ・特に学区はない。そのようなあたりを一体型の小中学校の場合どう考えるかということである。

**【委員】**

- ・地域密着のような話をしているが、学区外の子は取り入れないとなると、違ってくるのかなという感じがある。

**【委員長】**

- ・学校の学区に関することについては教育委員会の見解があると思われるがどうか。

**【事務局】**

- ・どの学校へ行くのかは、「選択制」と「指定制」がある。掛川市の場合は、教育委員会がこの学校へという「指定制」を取っている。浜松の学校においては、交通機関が発達しているところは「選択制」を取っているところがある。全国的には「指定制」を取っているところが多い。「選択制」を取った場合、学区外から来る子もいるし、逆に出て行ってしまいう子もおり、一長一短がある。そのことにより慎重に考えないといけないと思っている。

**【委員】**

- ・魅力があれば、地区の子も他へ流れることはないと思うので、地区の子がよそへ行かないようにという考えで進めてもらいたい。

**【委員長】**

- ・学区は市のルールがある。
- ・報告書の扱いについては、今後の掛川市としての教育施策へ反映されていくということや、原谷・原田地区から出ている報告書を踏まえて、今後先ほど言われた基本構想等へ反映されていくということ。
- ・この検討委員会で決まったからこの地区は否応なくこれだというわけではない。この検討委員会に行政的な権限はない。しかし検討委員会を作らずに教育委員会だけが独断専行で一体型と否応なく行うというのは民主的でないので、検討委員会において様々な角度で年に何回も開催し、検討してその報告書が作られる。それを行政としては参考にして、市の具体的な計画に移るということである。その根拠にしていく。

**【委員】**

- ・地区の未来検討会で、一体校になった場合の通学のことに関して、歩きや自転車、スクールバスの基準がわからないという意見が出た。だから不安であるという。その基準もこの中へ入れてほしい。一体校になったときへの理解につながると思われる。もう一つ、地元にある小学校が廃校になった場合、新しい学校の建設委員会を行うかもしれないが、それと同じ時期ぐらいに、廃校になる学校の活用委員会を並行して設立し、今あるものを有効に地域として使える様にしてもらいたい。地域の人がいなければどうなるか分からないが。市の方で考えてもらえないか。

**【事務局】**

- ・通学については、小学生が徒歩で4 km、中学生は徒歩が2 km未満。自転車は2 km以上6 km未満。それを基準にして、それ以上の場合はスクールバスを使用している。現在、原野谷中学校、原田小学校ではそれを適用しており、通学距離の長い児童生徒についてはスクールバスを使用している。新しい学校ができた場合もそのルールを適用していくことになると思う。

**【委員】**

- ・4 km未満でも歩いてくる児童はいるのか。4 kmというと1時間かかる。

**【委員長】**

- ・4 kmぎりぎりであればスクールバスの経路を考えて、配慮することは必要であると思う。市としての基準はあるということ。

**【委員】**

- ・中学生の6 kmを確認したい。6 km以上は何になるのか。それより通学距離が短い生徒はどうか。

**【事務局】**

- ・6 km以上はスクールバスとなる。2 km以上は自転車通学となる。

**【委員長】**

- ・子どもの負担とならないように、スクールバスにするなど、一律というのは考えなければならぬと思うので、実情に応じてバスの経路や距離数から、子どもの教育や成長も踏まえて考えていただきたい。
- ・閉校する学校が出た場合、その活用委員会などの地区住民の委員会も必要。

(3) 学校施設についての要望等

**【委員長】**

- ・学校施設についての要望等について伺いたい。要望を提言に入れるということで良いか。

**【事務局】**

- ・検討委員会の要望を提言に入れていくということで考えている。それが全て実現することではないが、意見があったということをもとめていきたい。

**【委員長】**

- ・前向きな意見があれば出していただきたい。御意見があればまとめていく。

**【事務局】**

- ・このような学校があればいいな、こんな施設であればということで御意見をいただきたい。先ほど、「地域と密着した」という意見もあった。そのような意見をまとめていきたい。

**【委員長】**

- ・委員長提案として、郷土の部屋を作ると良いのではないかと提案をしたい。この地域の歴史や文化人・文化財があるが、文化財については寄付寄贈という形で集めて、ある教室へ掲示・展示する。具体的な絵は図のとおり。また、世界時計を中央へ飾る。世界時計というのは、日本やニューヨーク、ロンドンなどの時刻が見られ、世界地図

が描かれており、子どもたちはすごく世界を意識する手がかりとなる。

- この地区の地形図のジオラマ等があると良いのではないかと思う。正式に注文すると100万円単位で高いものであるが、大学へ問い合わせ、卒業生の卒業制作でやるようなテーマにならないか。岡部の旅館には、昔の東海道の町並みを再現したジオラマがあり、寄付されたものであった。何か工夫されれば良いかなと思う。授業でも使えるし、郷土の人が自分の地域の歴史を確認したり、こういう文化人が出ていたなどがわかる。
- 原野谷は、原氏という大変な有力者の系統であったそうで、原氏についての歴史的なものを展示して、原野谷というのはこういう地域なんだということを理解するのもあり得るのではないか。

#### 【委員】

- 施設を充実してほしいということはいっぱいある。学校において、普通教室で学習することはもちろん、理科室や音楽室などでも学習する。しかし、原田小学校は図工室がない。パソコン室を作ったために図工室がなくなってしまった。今、図工は軒下で行っており雨が降るとできない。通常の学校にあるような特別教室を広く取って、充実してもらいたい。
- これからは、外国語活動を行うための広い教室も必要であり、パソコン室や学校図書館の充実も考えられる。今までのように単に本を読む部屋ではなく、学習センターであり情報センターであり、そういった機能を持った図書館であるわけで、図書館を作ったときに、その図書館の機能を活用するための図書館司書を常時配置してほしい。今は、1週間に1回だけである。毎日いればどの学級でも活用できる。施設と共に中身も充実していければと考える。学校の立場で考えると学校からしか考えられないので、地域や保護者の皆さんから、こんなのがあったらいいなど思いついたら是非教えていただきたい。

#### 【委員】

- 食堂というような勉強と離れた場所で食事をするのは、会話が弾んだり、色々なクラスや違う学年の交流もあったりということで、給食を食べる部屋、憩いの場みたいなところがあると、子どもたちもリフレッシュすると思う。また、そこで、食育としての活動もできると思う。勉強する場と分けてあると良い。

#### 【委員】

- 子どもたちが使う施設は充実した施設がほしいが、別に絶対にほしいと思うのは、地域コーディネーターやボランティア、サポーターの方が常に活用できる部屋である。昨年度地域コーディネーターの部屋を用意したが、狭い部屋で、ものを置いているところを使っていた。これから子どもたちを育てるとするのは学校だけではなく地域社会が一緒になって育てていかないといけないと考える。これからの社会、子どもたちが生きていくためには色々な人たちの協力を得て教育していかないと成り立たない。是非地域の人たちがここに集まって、「こういうことやったらどうかな」とか「2年生が野菜作りやっているので、手伝うか」など、この部屋に集まって学校の中でそういう相談や活動ができるようになってほしい。だからその部屋は絶対必要である。

#### 【委員】

- 原谷小の前の学習センター横に資料室という部屋がある。農作業に使っていた農機具を地域の皆さんが寄付してくれ、資料室の中に入っている。生涯学習センターが管理している。歴代の農機具がこのように発展したんだと、並べて展示してあげれば子どもたちの勉強になったり、「これは何だろう」という疑問に対して、「これは脱穀したときの農機具だよ」とか「これは牛に引っ張らせた器具だよ」とか説明できる。お茶に使った農機具も含め、新しい学校にあったら良いと思う。寄付されたものを全部新しい学校に持って行ってしまってもは良くないかもしれないが、地域の歴史に強く、



道具などの展示を手がけてくれる人がいれば、展示も工夫されて分かりやすくなると思う。

**【委員長】**

- ・この要望というのは、委員の皆さんが後でよく考えたら、こういうのがあるというのを学校、ないしは教育委員会に送ればよろしいか。

**【委員】**

- ・以前の検討委員会が出された要望を改めて出しほしい。こういうスペースがあると良いとか、全体的に狭いので、広いスペースがあると良いとか、そのところも当然踏まえらるるということが良いか。

**【事務局】**

- ・今後要望をまとめていく。これまでの検討内容も入れていく予定である。それ以外に何かあれば出していただきたい。

**【委員長】**

- ・さらに要望がある場合は教育委員会の方に出していただいただく。学校へ届けても良い。ホワイトボードに書かれている今出されたものも要望としていく。
- ・電子黒板やタブレットなど細かいものも色々あると思うので、是非お願いしたい。教育委員会もかなりのことを分かっていると思うので、是非委員の皆さんも要望を出して届けていただいただきたいと思う。

以上で協議を終了した。

6 連絡事項について

(1) 今後の予定について

地域検討委員会・地域意見交換会

- ・第7回地域検討委員会 平成30年10月24日（水）19:00～

7 閉 会